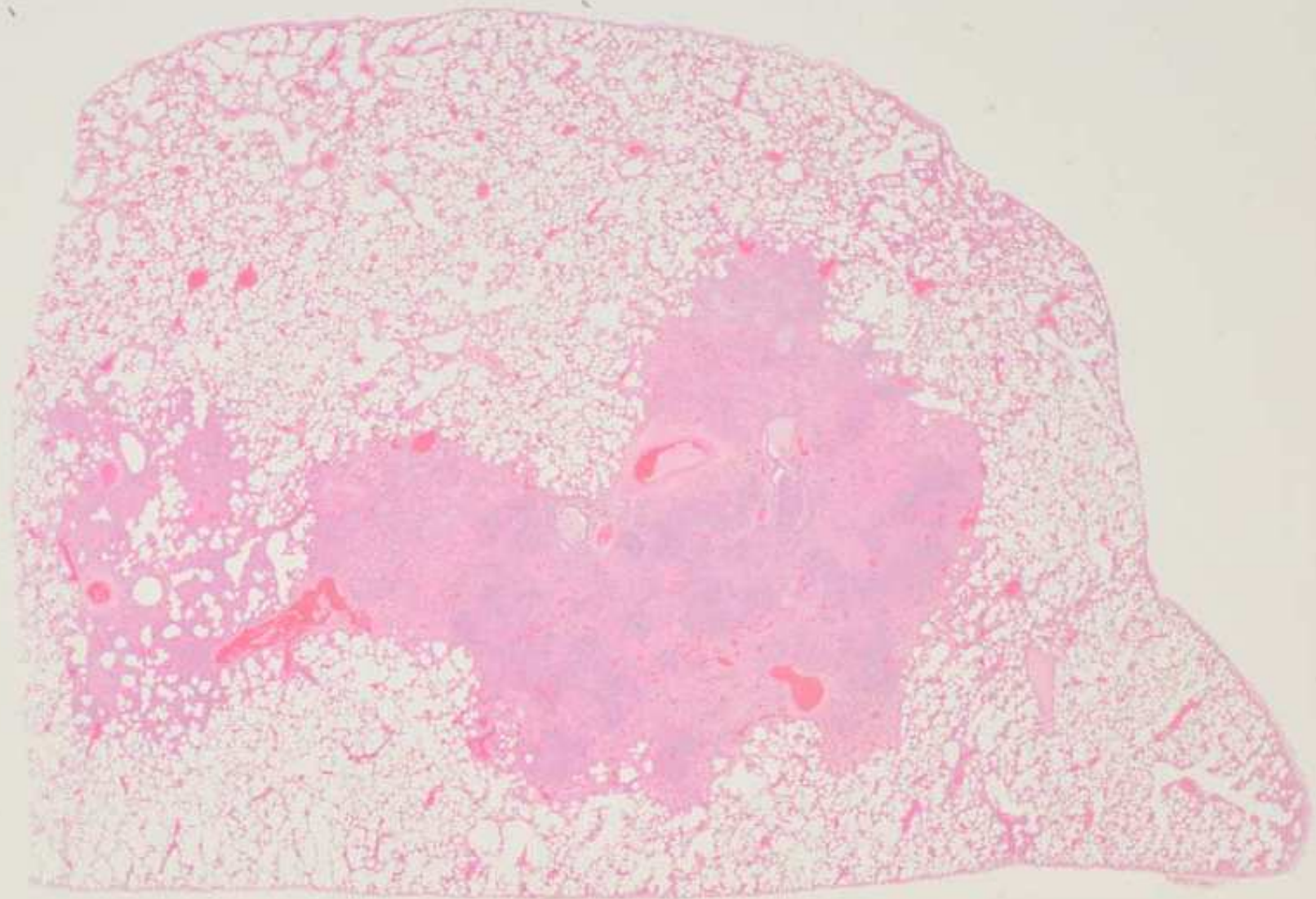


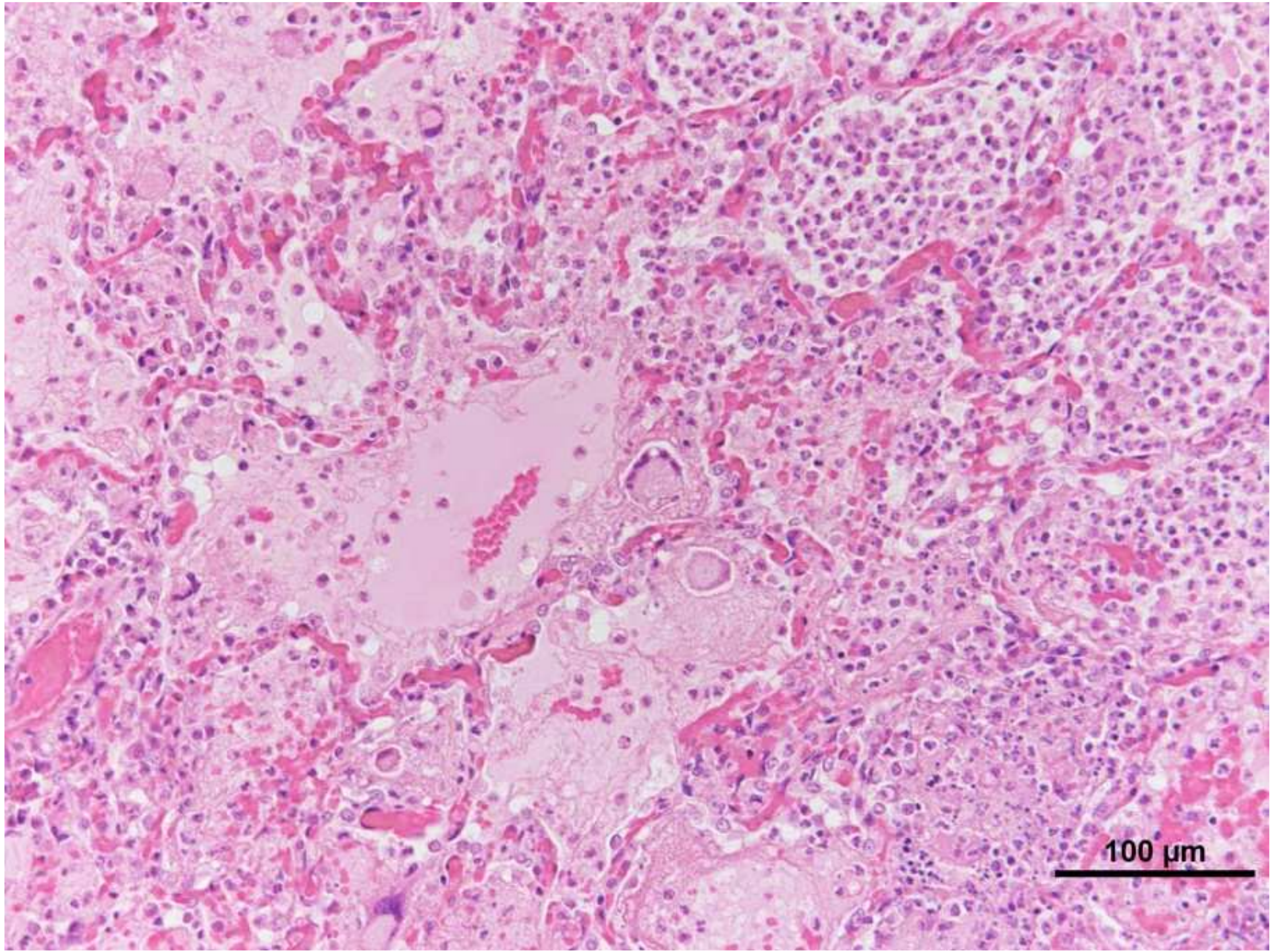
2019-12-2

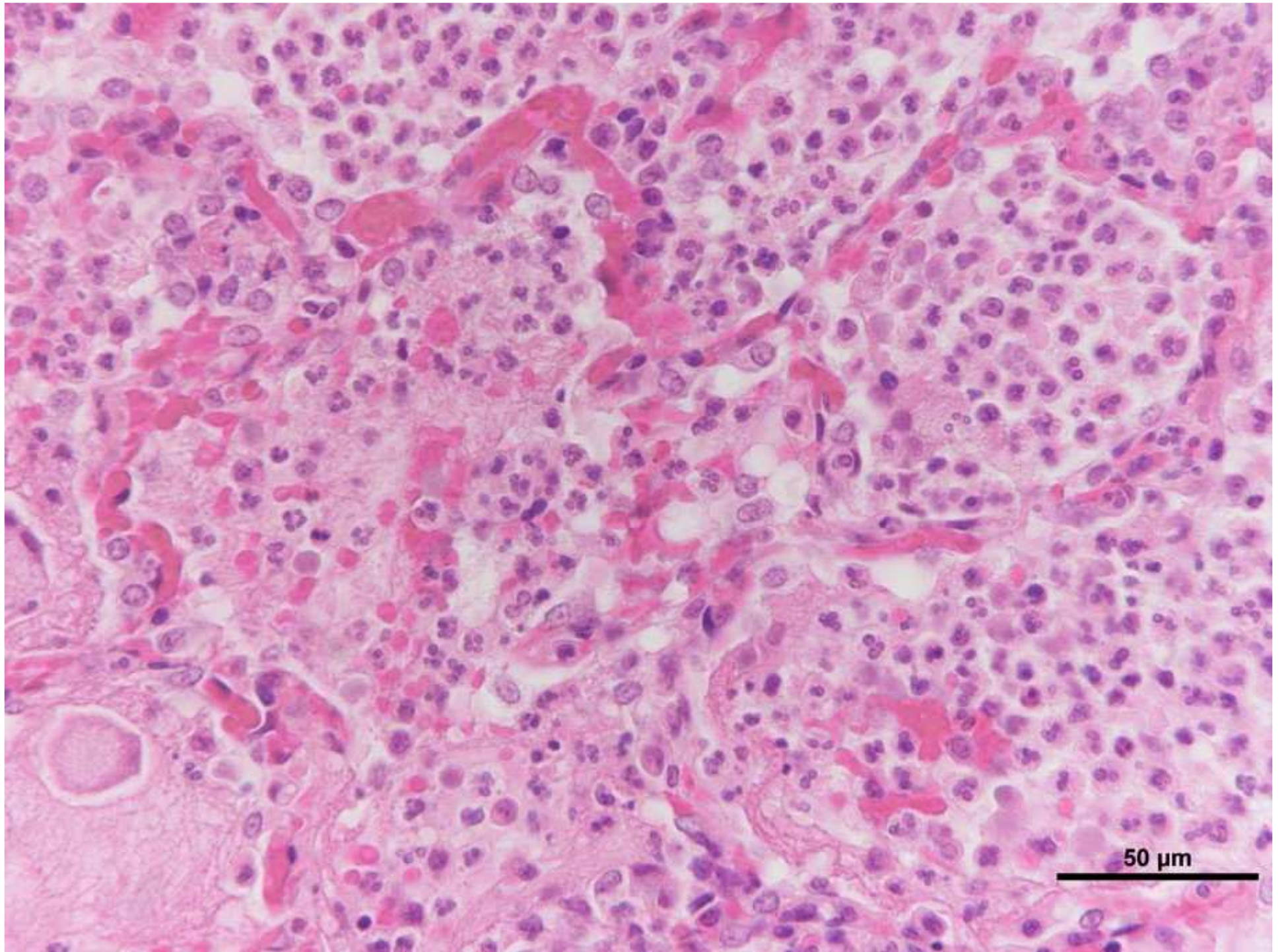
サル 肺

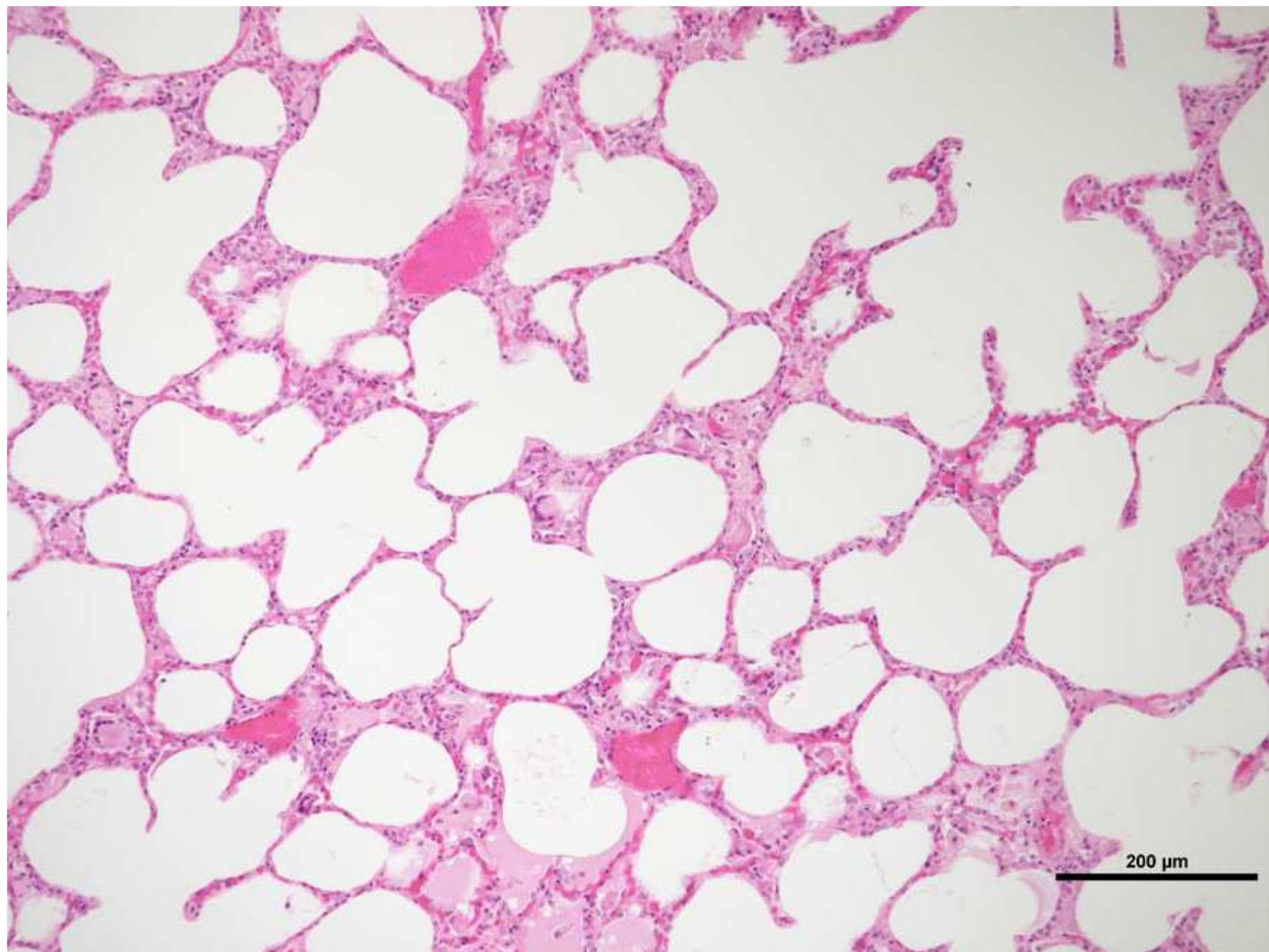
富野 里櫻子

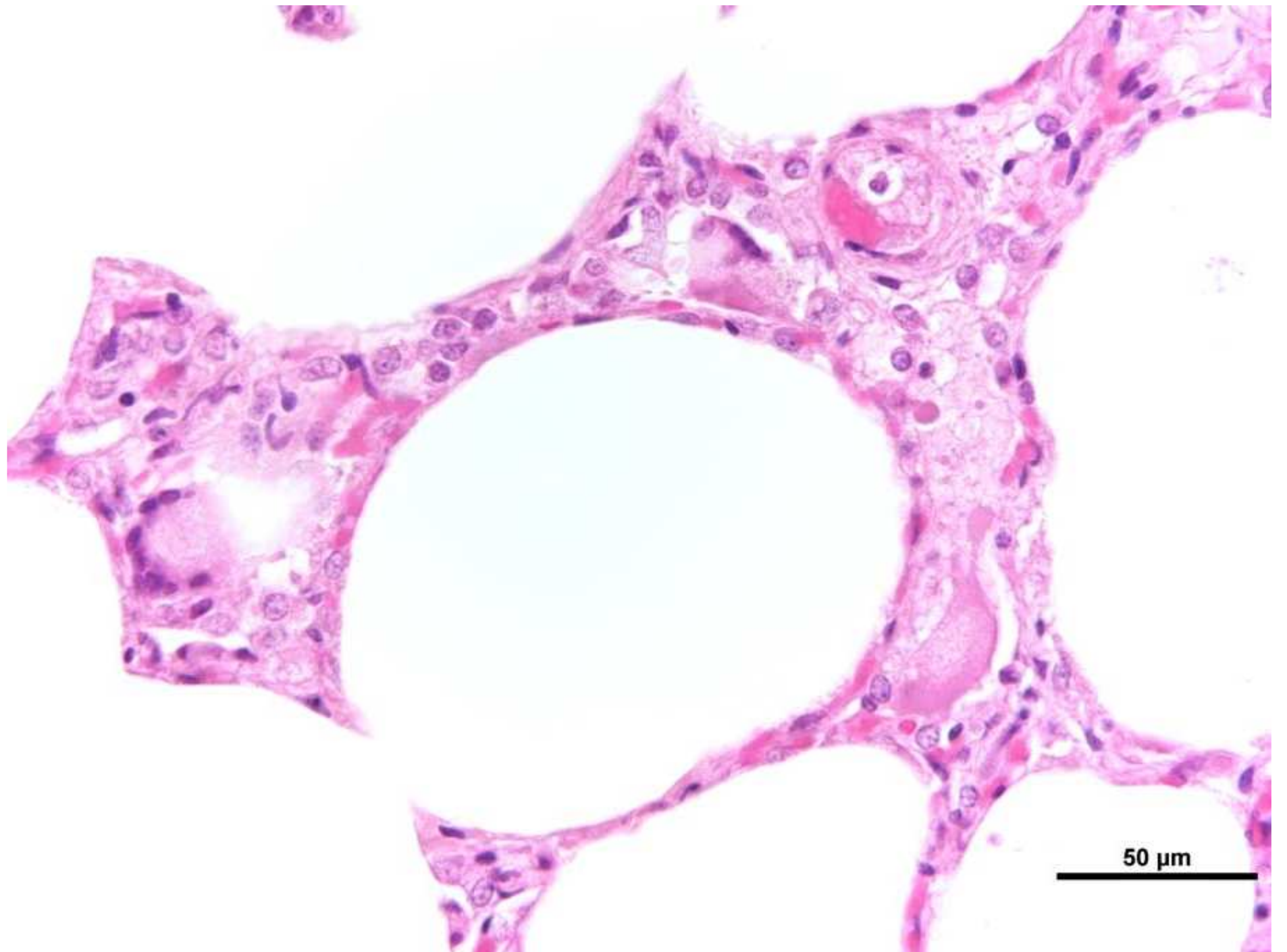
- 提出機関：ハーバード大学医学部比較病理学部門
ニューイングランド霊長類研究センター、米国
- 症 例：アカゲザル、4歳、雄
- 病 歴：研究のためサル免疫不全ウイルスを接種した6か月後、食欲不振、急性の体重減少を示した。安楽死2日前の臨床検査では、鼻汁と喘鳴を伴った重度の呼吸困難、液状の下痢、重度の好中球性白血球増多症を呈した。予後不良およびサル後天性免疫不全症候群への進行により、安楽死された。
- 実験室検査：なし

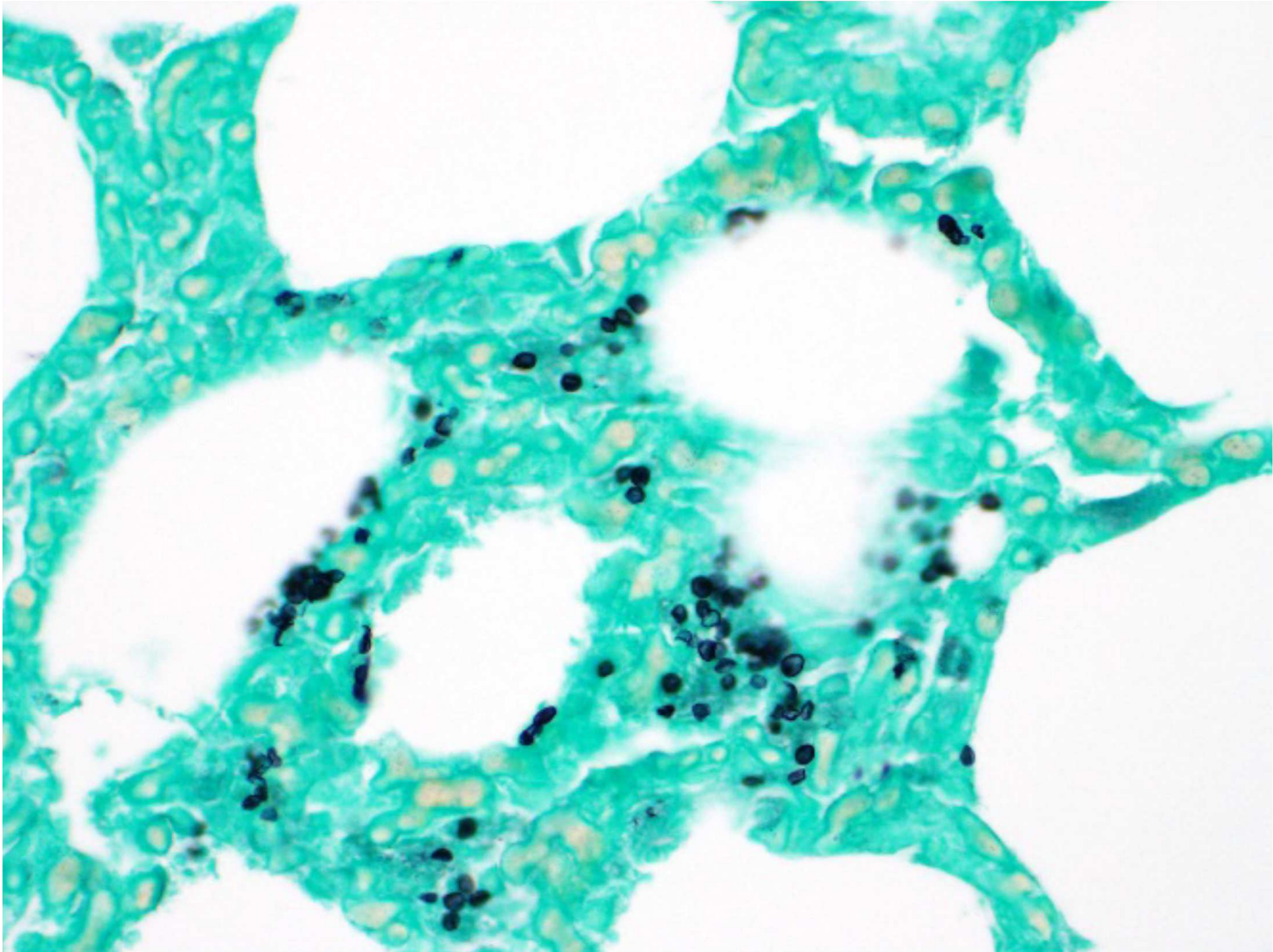












提出者の診断

肺：多発性、重度、慢性気管支間質性肺炎、
SIV巨細胞および*Pneumocystis carinii*を伴う

Lung : Multifocal, severe, chronic bronchointerstitial pneumonia
with SIV giant cells and *Pneumocystis carinii*

JPCの診断

肺：肺炎、間質性、組織球性、
豊富な真菌シスト、好中球、および多数のウイルス性
合胞体を伴う

Lung : Pneumonia, interstitial, histiocytic,
with abundant fungal cysts, neutrophils and numerous
viral syncytia.

提出者のコメント

- レンチウイルスにはヒト免疫不全ウイルス（HIV）、SIV、馬伝染性貧血ウイルス（EIAV）などが含まれ、免疫不全、脳炎、肺炎、関節炎、貧血、血小板減少症、リンパ組織の過形成などの慢性疾患症候群を引き起こす
- マカク（真猿類）の *Pneumocystis carinii* (*P. carinii*) 感染では、肺胞腔における泡沫状淡赤色の滲出液の貯留、広範なリンパ球浸潤、II型肺胞上皮細胞の過形成が特徴的である
- HIVで一般的な肺病変は、血管や気管支周囲のリンパ球性組織球性肺炎であり、SIVでも同様である。SIV感染における多核巨細胞の浸潤は免疫系がウイルス複製を制限できないことを示しており、終末期のAIDS/SAIDSの特徴である

JPCのコメント

- ・ *P. carinii*のシストは細胞壁に β グルカンを豊富に含み免疫応答を刺激するが、栄養体は細胞壁を欠き免疫応答を刺激せず、阻害する可能性がある
- ・ AIDSのSIV感染マカクでの*P. carinii*感染は終末期によくみられる。一般的に肺への好中球浸潤は*Pneumocystis carinii* pneumonia (PCP) における肺損傷の原因とされており、発病を予期させる。
- ・ レンチウイルスに感染したアフリカの非ヒト霊長類はCD4+細胞減少が特徴であるAIDSに進行しないとされてきた。しかし2009年にアフリカミドリザル、マンドリル、マンガベイでの進行性のSIV感染と、ヒヒおよびチンパンジーでのHIV感染が報告された。
これらの種におけるレンチウイルスの同種及び異種間感染は「非病原性」とするよりも「持続的非進行性」と考えた方がよいかもしれない。
non-pathogenic
persistently non-progressive